



西陵中学校パソコン部のクラブ活動

市民リポーター  
神保賢太郎さん



じんぼ けんたろう  
新川町在住。20歳。  
江別市出身。日本工学院北海道専門学校マルチメディア科2年。来年4月からは同校での勉強を生かし、東京の大学に編入が決まっている。

# 正しい情報技術を 学校教育の場で

## 市内小・中学校における 情報教育の現状と課題

### 情報化に対応した 教育環境

高度情報通信社会が進展していく中で、学校では、コンピュータやインターネットを活用し、高度情報通信社会に対応できる情報教育を目指しさまざまな教育が行われています。

こうした情報教育の一層の充実を図るために、新しい教育課程では、小・中学校などで『総合的な学習の時間』においてコンピュータやインターネットの積極的な

『生きる力』をはぐくむことをねらいとする新しい学習指導要領のもと、今、学校教育は大きく変わろうとしています。

『生きる力』をはぐくむとは、自ら考え、創意・工夫ができる力を育てること。高度情報通信社会を子どもたちがたくましく生きていくためには、情報教育は欠くことはできません。

小・中学校を訪ね、情報教育の現状と課題をレポートしました。

### 活用を推進しています。

こうした中で登別市では、高度情報通信社会の進展に対応し、子どもたち自らがさまざまな情報を選択し、学習活動で積極的に活用することができる能力の育成を図るため、小・中学校にコンピュータを導入し、ネットワーク化を進めています。

### 急速に進む情報化 指導体制の充実

「最近、中学校の授業でもパソコンを使う機会が増えてきています。今では生徒の約3人に1人は自宅にパソコンを持っているので詳しい生徒がクラスに2、3人は



市民リポートは、市民のみなさんが自由に発想・企画するページです。

いますね。」と話すのは、西陵中学校教諭の北尾稔さん。



北尾 稔さん

「主に、家庭科や社会科、理科の授業で、その教科に関する情報の収集の方法や電子メールの送り方などを教えています。市内の中学校間もネットワーク化されているんですよ。将来は体育の授業風景の動画をインターネットにアップするなど、好きなときに見ることができ、いわゆるビデオオンデマンドのようなものもやってみたいですね」。

学校では、インターネットの膨大な情報の検索や電子メールの送受信など、『総合的な学習の時